

全校朝の会「名前はコロナ・相手の立場を思いやる優しい心」

校長

おはようございます。

今日は、オーストラリアに住む8歳の男の子、“フリース君”の話をしてします。

去年の4月にあった本当の話です。フリース君は、自分の大好きなアニメ「トイ・ストーリー」の主人公ウッディーの声を担当したトム（トム・ハンクス）さんが、新型コロナウイルスに感染したことを知りました。そして、そのトムさんに、「お体は大丈夫ですか？早く元気になってください。」というお見舞いの手紙を送りました。フリース君は、とても気持ちの優しい子です。でも、その手紙の続きには、

「僕は、今、学校でいじめに遭っています。」と書かれていたのです。フリース君は、どのようないじめを受けたのでしょうか。

それは、フリース君の名前にありました。フリース君の名前は、「コロナ・デ・フリース」と言います。これで、どんないじめか分かったと思います。自分の名前が、コロナウイルスと同じために、ウイルスのように仲間からからいじめられ、悲しい思いをしていたのです。

それまでは、大好きな両親が付けてくれた「コロナ」という名前が、とても気に入っていました。どうですか？この男の子の気持ちが分かりますか？

もし、自分が「コロナ」と言う名前だったとしたら、どんな気持ちですか？また、周りに「コロナ君」と言う人がいたら、どう思いますか？「コロナなんて名前はいやだ」「コロナなんて言う名前はかわいそう。」「そんな名前をつけないでほしい。」と思いますか？それもと、「名前がコロナだからと言っても、自分はばかにしたり、からかったりしない」ときっぱり言えますか？

この話には続きがあります。コロナ・デ・フリース君から手紙をもらったトムさんは、次のようなお返事を書いたそうです。

「大好きな友達のコロナ・デ・フリース君へ

君の手紙で僕は素晴らしい気持ちになりました。気分が落ち込んでいる時に励ましてくれるのが友達です。素敵な友達になってくれてありがとう。“コロナ”は、太陽の周りに輝く光の輪という意味もあります。この素敵な名前をもつ人と知り合ったのは、僕の人生で君が初めてです。」どうですか。

校長先生は、この話を聞いて心が温かくなりました。そして、松山小のみなさんに聞いて欲しいと思いました。

コロナウイルスにかかった人が完全に治ってもコロナだと言われたり、そこに働いていただけでコロナだと言われたり、風邪で休んだだけなのにコロナだと言われたりする人がいるそうです。

コロナ君のように、勝手にコロナウイルスと決めつけて、差別したり、いじめたりする人を皆さんは、どう思いますか？

皆さんには、言われた人の気持ちを想像し、どんな言葉をかけたらいいのか？見守ったらいいのか？を、考えてほしいと思います。

いつも、コロナ君のことを思い出し、「手洗い」、「マスク」と「相手のことを思いやる優しさ」の3つを大切にして、コロナウイルスから命を守ってください。

これで、校長先生の話が終わります。